

2017 3月一般質問全貌

(前住議員) はい。皆さん、こんにちは。

() こんにちは。

(前住議員) 5番前住孝行です。傍聴にお出でいただいた方々、またインターネットでご覧いただいている方々、年度末でお忙しい折に時間を作っていただきありがとうございます。

12日には氷ノ山スキー場の感謝祭が開催されました。天候も良く絶好のコンディションでの開催でスキー場が大変賑わっていたようです。その前夜祭で、東日本大震災6年目の追悼の日に17年振りの松明滑走が行われました。地域おこし協力隊を中心に町内外の若者グループも交えての開催で、これまでの行事がより一層盛り上がったように思います。その際、地元業者組合、わかさ氷ノ山自然ふれあいの里活性化協議会など、さまざまなところから協力された方があり、同じ思いの人の多さを実感したひとときでした。課題は多々あったようですが、来年そこを改善していけばよりよいものになってくると思います。こうして同じ方向を向いた人の仲間をふやし、その思いを強く太いものにしていくことの重要性を改めて実感しました。

それでは、通告させていただいています3点について順に質問いたします。

インバウンドの受入態勢について

まずはインバウンドの受入態勢についてです。2月22日に台湾の総領事、副総領事と通告しておりますが、違うようですので訂正も含め、台湾の関係者が若桜町に来られ、若桜学園や氷ノ山スキー場などの視察をされたようです。大変関心されて帰えられたと聞いておりますが、そのときの様子と町長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員の2月22日に台北の駐大阪経済文化弁事処の陳訓養(チェン・シュンヤン)の処長と洪英傑(ホン・インジエ)副処長、陳浩明(チェン・ハオミン)係長の3名が若桜町にお出でになりました。そのときの町長の所見をとということでございますけども、これは若桜町の氷ノ山を中心とした観光施設に台湾からの観光客を誘致することを目的に、鳥取県関西本部と鳥取県観光交流局交流推進課、若桜町が連携をして実施したものです。最初に若桜学園を訪問し校長先生に施設一体型小中一貫校として

の特色ある教育環境をご説明いただき、その後校舎と施設の見学をしていただきました。小、中の生徒たちが協力し合いながら取り組んでいる様子や、英語教育への取り組み、木をふんだんに使った校舎やすぐ側にある給食センター、広いグラウンドなど充実した教育環境に驚くとともに、大変うらやましがっておられました。その後、氷ノ山に行き、響の森や氷太くん、スキー場などを見学していただきながら、夏の登山やキャンプ場の利用、自然体験プログラム等についてもご説明いたしました。台湾では雪が降らないため雪を見ることが大変珍しく、子どもにも雪遊びなどをさせてやれば大変喜ぶとおっしゃっておられました。

陳（チェン） 処長には今回の来町を通じて、若桜学園の恵まれた教育環境や氷ノ山ふれあいの里の充実した施設などに強い関心を示していただいたと感じております。今後はスキーや登山、自然体験といった四季を通じた多種多様な体験活動の場として、台湾からのインバウンドのみならず大阪と神戸にある中華学校を林間学校やスキー遠足などに来ていただけるよう、働きかけをしていきたいと考えております。また、台湾も親日家が多く観光客も年々ふえており、リピート率も大変高い

ので若桜町に観光客を誘致できるよう、台北駐大阪経済文化弁事処との関係を密にしながら、前向きに取り組んでいきたいと考えております。私も台北の駐大阪経済文化弁事処にも何回も訪問させていただいておりまして、ぜひとも実現できるようにも頑張りたいと思っておるところでもございます。

(川上議長) 前任孝行議員。

(前任議員) はい。もう早速、中華学校の自然体験活動誘致というようなところら辺まで考えておられて、何か、本当に視察していただいたかいもあったのかなというふうに思いますけども、また、具体的な決めとかもまた、これからされていくというふうに思いますので進めていただけたらというふうに思っております。

では、次の質問に入りたいと思うんですが、私もちょっとスキー国体の引率で長野県の北安曇郡白馬村に行ってきました。すれ違う人がもう日本人より多い、もう外国の方が多い、もうこれぞ、インバウンドというような環境に触れることができ、さまざまなことを実感して帰ったところです。

まずは「人」です。

英語を話せる人が多くて、レストランでメニューを注文するとき、

お客さんがど　　ういう方かというのを判断されながら、話す言語を変えられているような状況でした。それで、宿泊させてもらっていたホテルでも、その従業員の方、マレーシア人の方でして、でも日本語上手に話されているというような状況でした。それで、若桜学園は英語教育の先進校ということでもありますので、児童・生徒は大分抵抗なく対応できるんじゃないかなというふうに思うんですが、それ以上の世代の方にどのように受け入れていただくつもりか、考えをお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。非常に難しい問題で私も答弁にちょっと困りますけども、答弁させていただきます。白馬村に関しての質問でございますけども、白馬村については、今月 12 日の朝HNKの小さな旅という番組で紹介されておりました。番組では白馬村には年間 10 万人を超える外国人の観光客があり賑わっている内容でございました。人気の民宿では和服姿で写真を撮ったり、女将さんの習字指導など、日本文化が体験できる外国人観光客が大変喜ぶおもてなしをされておりました。しかしながら、白馬村は長い歴史環境の中でできあがった先進地であると考えておりました、今、若桜町

と比較すべきことではありませんが、インバウンドの対応の中で一番重要なことはやはり相手が何を要望しているのかを理解して、その要望に対して的確に応えることだと思っております。まずは今ある観光商品の磨き上げと観光商品の創造、観光地としての魅力のあるまちづくりを作り上げなければなりません。若桜町総合戦略の数値目標を達成するためにも、関係団体と協議連携しながら観光施策を進めていきたいと思っております。現在どれくらいの外国人観光客が若桜町を訪れているかは正確な数字は把握できていませんが、ほとんどないに等しいと思っております。しかし、日本を訪れる外国人観光客は、日本の伝統文化、原風景を求めて都市部から地方へと変わりつつあると伺っております。若桜町においても今後、外国人観光客が訪れることを想定し、その対応を講じる必要を感じております。前住議員お尋ねの外国人観光客の受け入れに応じて若桜学園の児童・生徒以外の世代にどのように受け入れていただく予定かについてですが、まずは多くの方に若桜町を知っていただくことが必要と考えております。現在、本町では韓国や台湾に向けて団体観光客の呼び込み、働きかけをしているところですが、その対応としてホームページの多言語対応や観

光パンレットや主要部分を外国語表記にしております。新年度においてもより充実を図るため、各施設に設置している看板に外国語表記を加えるよう計画をしており、できることから進めていきたいと考えておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に白馬村になかなか比べるあれではないかもしれませんが。それで、私もちょうど白馬村にスキー一緒にやっていた先輩のスキーヤーが住んでおられるんですけど、その方もやっぱり、何年前になるんだろうな、僕が高校時代ですから20年、30年前くらいですかね、にやっぱり英語の大学ですか、青山学院大学の英語の勉強をするみたいなかたちで、もうすでにその時点からもうされているような、確かにもう準備というか、歴史があるところのかなというふうに思います。そこは急に、そのようになってなかなか難しいと思いますので、先ほど町長が言われたように、できるところからやっていくしかないのかなというふうに思ったりもしております。

では、続きまして、今度は人ではなくて「もの」になるんですけど、外国語表記の多さに驚かされました。看板、パンフレット

など英語、中国語、韓国語と対応されていました。ホームページ、若桜町のホームページは、先ほども町長が言われましたように言語を選択できて対応されています。でもちょっと若桜町の観光協会とか、若桜鉄道、道の駅桜ん坊、氷太くんなどのホームページを見るんですけど、やっぱり日本語表記だけになっていて、その団体がやらないといけんということはそうなんですけど、何かできないものかなと。それで、スマホアプリ等で言語変換とかできるものがあるので、それで照らして翻訳してすればいいかというのがありますけど、その辺の全体も含めてですが、町としてできることがないのかどうか、お伺いします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員の方からはインバウンドの受入態勢について、若桜町のホームページは言語を選択でき対応されているが、観光協会、若桜鉄道、道の駅桜ん坊、氷太くんなどの関連団体は日本語表記だけになっている。スマホアプリ等で変換してくれるものも出てきていますが、町としてできることはないかとの伺いでございますけども、議員ご指摘のとおり、観光協会や若桜鉄道といった関係団体における環境整備はまだまだ進んでないのが事実で

ございます。スマホアプリの活用といった話もありましたが、町としましてはまずは各団体で多言語への対応について、十分な検討していただくことが重要だと考えます。検討の結果、必要ということであれば、表記や観光施設の概要、説明パンフレット等の多言語化を進めていただくようになろうと思います。その際には必要な支援はしていきたいと考えておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。多分町のホームページを多言語化されるときには、結構いっぱい別途金額がかかってきておられることも多分経験済みでわかっておられると思いますので、そのことを踏まえてそういった支援がしていただけたらいいのかなというふうに思います。やはりどうしてもツアー、団体のツアーで来られた場合は、添乗員さんとかおられて通訳の方もついておられるので、その通訳の方を介してやり取りはできるんでしょうけど、今後、個人のお客さんとなると、やっぱりネットを使っての観光になるというふうに思いますので、本当に急にせえっていてもなかなか難しいと思いますから、ちょっとずつでいいと思いますのでそういった環境づくりというのをしていけば、本当に若い世代も、もう外国の方

とか関係なしに来やすいんじゃないかなというふうに思いますのでよろしくをお願いします。

では、今度は「こと」としての質問になります。その白馬村なんですけど、スキーをすること、また温泉に入る、温泉地でもあります。それで食べること、それで泊まることというのが何かもうつながっているような感じで、シャトルバスがもう本当にいろんなところをうろうろしている状況でした。それで、結構便が30分置きぐらいのいろんな便があって、それで、もうすれ違う、すれ違う車がもうシャトルバスみたいな感じで行きたいところに行けるんだらうなというふうに思ったところです。それで、乗っている方がやっぱり日本人ではなくて、外国の方が多く乗っておられて、その辺の周知もしっかりされているとか、わかっておられるとか、外国の方も状況があって何かの仕組みがあるんだらうなというふうに思っています。それで、これもなかなか町が主導でやるっていうことではないのであれなんですけど、そういった話がまとまるようなことがあれば協力してもらえるのか、お尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前住議員の方からさらに「こと」としてスキーすること、温泉に入ること、食べること、泊まることなどがつながるようにマイクロバスがいろいろなところを走って行って、好きなところへ行けるようになっていました。外国の方が多く乗っておられ、こうなるまでには、何かの仕組みがあるのだらうと思います。こういった話がまとまるようなら、ゆはら温泉、町営バスと協力できるのかお尋ねをいたしますということでございますけども、白馬村の例は長期滞在や外国人客の泊食分離に対応するための、交通アクセス整備でありまして、スキー場周辺の宿泊施設等を結ぶシャトルバスのようにあります。若桜町におきましては、スキー場来場者のほとんどは自家用車を利用しての来場であります。先にも述べましたとおり、まずは多くの方に若桜町を知っていただくことが必要と考えておりまして、韓国や台湾に向けて団体観光客を呼び込むような働きかけをしております。ゆはら温泉などの交通アクセスにつきましては、利用料金の割引など可能であると思いますが、町営バスを観光用シャトルバスとして利用することは、生活交通として利用される方への不便が生じますので難しいと思います。いずれにいたしても、団体観光客であれば貸切バス

で来られておりますし、それ以外の対応となれば宿泊に利用していただける団体であれば、高原の宿氷太くんが送迎するという方法などが現実であろうと思っておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。多分観光のパックツアーみたいなので来られて、その貸切バスとかで動かれるということもあったりもするかもしれませんが、そういったときに何か、先ほどもゆはら温泉の割引とかあったりもしたので、そういったことに対応していただけたら本当にいいものができるんじゃないかなというふうに思います。それで、こうやって推進するような感じで質問させていただきましたけど、結構危惧するところもあったりして、あんまり外国人の方ばかり来られたら日本の文化はちゃんと残るのかな、みたいなこともちょっと気になっていたりしていました。それで、でもそのスキー一緒にやっていた先輩、スキーの先輩ですけども、ちょうど和太鼓をやっておられて、やっぱりそういったところは大事にやっぱりされているなということも考えながら、その期間過ごさせていただいたようなところなんです。それで、観光地のグローバル化が進む今日ですので、スキー場だけでなくこの宿内全体で 10 万

人観光客を目指すということですので、ここは避けて通れないテーマなのかなというふうに思っております。それで、できることからしてくださるということで、町長述べられましたけど、本当に、あんまり寄り添いすぎて若桜のよさが失われるっていうのもいけないので、本当に若桜の魅力を先ほど高めるっていうことを言われましたので、そういった方向で進めていただきながら、本当にできることは少しずつ対応できるようにしていただけたらというふうに思います。

町営バスの利用促進について

では、次の質問に入ります。町営バスの利用促進についてということですが。

通告をしてからこの本会議の議案等が出てきますので、大変ちぐはぐしたことになっております。それを踏まえての質問なのでちょっと何か変なやり取りになるかもしれませんので、そこはご了承ください。高齢者の運転による若い児童の交通死亡事故が話題となっておりますので、それで、免許返納についての議論がなされています。若桜鉄道の方でも免許返納された高齢者の運賃を半額にする割引制度を2015年4月より行っておられます。それで、

自治体の方でも町営バスの回数券を交付している市町村が8つありまして、そのことについて町長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。前任議員の方から免許返納された高齢者に町営バスの回数券を交付している市町村が8つもありますが、そのことについて町長の所見についてのご質問でございますけども、全国的に交通事故件数自体は年々減少しているものの、65歳以上の高齢者ドライバーによる交通事故は増加する一方です。そのため、平成10年から運転免許の自主返納という制度が始まりました。身体機能や判断能力の低下などを理由として運転免許証を自主的に返納すると、代わりに運転経歴証明書の交付を受けることができます。運転経歴証明書とは免許証と同じように身分証として使えるもので、免許証返納後に申請することによって交付され、無期限で使用することができます。この運転経歴証明書を提示することによって県内でもさまざまな特典が受けられます。例えば、タクシー運賃が1割引になったり、県観光事業団の関連施設が2割引で利用できたり、鳥取市を初め8つの市町では町営バスの回数券などを交付されています。若桜町では現在、若桜鉄道、若桜郡家間

の運賃が5割引になるサービスを平成27年度より実施しています。年間の利用回数は全体でも50回程度とあまり多くありませんが、今後も継続して実施していく予定にしております。

若桜町では高齢化率も年々高くなっておりますので、免許返納者のみならず、子どもから高齢者まで全町民を対象に新年度から全路線、全区間100円バスを実施いたします。そのため、バスの回数券の交付は考えなくてもバス利用に係る負担は少なくなり利用しやすくなると考えておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。ということで早速ちぐはぐのところが出てきたんですけど、もう2番の質問に入る前にあれかな、そうですね。それで、やっぱり安全安心を唱える若桜町ですので、高齢者の運転に関しても安全ですし、通学する子どもたちにとっても安全っていうふうにつながるので、ぜひとも本当にこれはいいい、100円バスですね、100円バス、じゃなくて、免許返納に優遇するということは必要じゃないかなというふうに思います。

では、それを踏まえての2番ですけど、いきます。はい。料金の3割相当の値下げ等で利用者の増進に努めてこられまし

たが、人口減少の方の影響が強く、乗車人数もあまりふえていない状況です。それで、昨年の12月7日に行われた教育を語る会の中でも、児童・生徒の町営バス料金の無料化の要望がありました。私も趣旨は大いに賛同しております。それで、無料とはいかないまでも100円とかでできればということで提案をさせていただくんですけど、もう町長の施政方針の中で出ておりますので、そこまでに至る町長の思いをお訊きしたいというふうに思います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。児童・生徒の町営バスの料金を100円にしたかどうかという町長への質問でございますけども、町営バスの料金は平成24年に料金改定を行い、料金の値下げを行いました。先般の教育を語る会の中で、町営バスの無料化の要望なり、また、町民の皆さんからもバスを利用して若桜に出てくると高いところは往復700円かかるので、1週間に何回も出てくることができないなどのご意見をいただいております。そのため、交通弱者の皆さんの利便性の向上を図り、住みやすく暮らしやすいまちづくりを推進していくために、先に答弁したとおり、町内の全路線、全区間を100円とするよう考えております。実は100円バスについては以前か

ら検討していたところでございまして、皆さんが氷ノ山、ゆはら温泉、吉川の寄来屋、温水プール、生涯学習情報館、若桜学園、ドリーミー、若桜鉄道、容易に行ける、容易に行動できるようにさせていただいたということでございまして、町民の皆さんには今以上に利用しやすくなりますのでどんどん利用していただきたいと思っております。

もう1つ私の所見で言いますと、実は保育所の無料化、あるいは学校の小中の給食費の2分の1の公費負担というようなことをさせていただいておるんですけども、1つは給食費が、本当に5,000円ぐらいいるのに町が2分の1もっておるということが、それが保護者の皆さんにも伝わっていない。これは私、非常に残念でございまして、私たちもない財布の中から一生懸命に努力をして、そういうことをして、皆さんのために頑張ってきておるところなんですけども、そういうところがはっきりとやっぱりわかってほしいなということを私も強く感じておるところでもございまして、そういうところを皆さんが感じていただければ本当に嬉しいなと思っております、今回の100円バスでも当然という考え方でなしに、町民の皆さんが健康づくりであっちこっちに行き

たりして、そういうようなことも大きな要素もあるわけでございまして、そういうこともこれからもしっかりと私は理解していただいて、本当にいいな、住みやすいな、若桜は誇りを持って住めるな、そういう町を私は目指しておるわけでなんでございまして、また、皆さん方も、そういうことをしっかりと住民の皆さんにもお伝え願いたいなということを思っておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。僕も早くこれ一般質問して、一般質問してからこの100円バスになったら僕もちょっと手柄みたいな感じになるんですけど、ちょっと、ここをちょっと失敗したなっていうところがあって、宣伝しにくい部分もありますが、でもやっぱりこれは本当にいいことだと思いますので、僕も承認されればですけど、広報をしっかりしていきたいというふうに思っております。それで、本当に私もつく米に住んでいた時分は定期があって若桜には幾らでも出ることができたんですけど、逆に、じゃ、僕の友だちがつく米に遊びに来るっていうことは本当にこれまではなかった状況です。あっても年に、年じゃないですね、本当に3年に1回とか、そういった状況で、それは当然普通にバス料金がかかってく

る、僕らはかからないのだけど友だちにはかかってくるっていうような負担が大きい部分もあったのが原因だというふうに思っています。

それで、本当にそれが何か本当に平等なんかなっていうのが、すごいつく米に住んでいたときは思っていて、でも、それは仕方がないのかなっていうふうに思っておったところ、今回こういった 100 円バスということになれば、本当に若桜町全体が 100 円の負担はある、往復 200 円か、あるもののそういう部分ではかなり負担は減っているんじゃないかなというふうに思います。それで、先ほど町長が言われたいろんなところに行けるようにということで、私も教員時代とかはやっぱりもう、下、下っていうような感じで向いている方はやっぱり向こうばかりだったんですけど、この町会議員にならせていただいてから、この若桜町隅々を行かせてもらうことがふえて何ていいところがあるだいやって、本当に若桜のよさっていうのを実感させてもらうことがすごく多いです。それで、この 100 円バスを機に、何だろう、岩屋堂に行ったことがないわいやという人とかも、ちょっと行ってみようかな、みたいな本当に思いになっていただいたり、落折の洞窟にも

行ってみたいとか、そういった本当に広がりを見せればいいかなというふうに思っております。それで、自分のことといたしましては、子どもにスキーをさせたいと思っておるんですけど、なかなか自分が送り迎えできないときに、もう町営バスで行って来いみたいなことが言えるかなというふうに思いますので、本当にぜひともこれは承認いただいてやっていただけたらというふうに思います。

じゃ、3番目の質問に入りますが、鳥取環境大学と日本交通株式会社さんとが連携したしまして、何か無料で乗れる仕組みになっているそうです。それで、鳥取環境大学の学生とか、鳥取大学の学生ですか、が本町に来るっていうことはやっぱり何かお金には代えられない利益をもたらしてくれんじゃないかなというふうに思っております。それで、これもちぐはぐしていますね、これも町営バスを無料とはいかないまでも格安にして、鳥取大学を含めた地元大学生を歓迎料金とかにして、何か宣伝すれば、何かまたようやっているなみたいなんで思ってもらえるかなと思っただんですけど、100円バスにしますので、ちょっとまたこれもよくわからんことになってしまいましたが、そういった考えについて

ては町長、どうお考えかお尋ねします。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。大学生のバス料金を無料にしてはということでございまして、格安にして地元大学生歓迎料金にすれば宣伝にもなるということでございますけども、ご存知のように、鳥取環境大学と日本交通でございますけども、無料ですけども、環境大学が日本交通にたくさんのお金を出しているわけございまして、そこもしっかりとわかっていただきたいと思いますと思っておりますけども、日本交通が運行している路線バスのうち、鳥取駅、環境大学前、若桜車庫間は年間を通じて学生証を提示するだけで乗車することができるようにもなっております。また、土、日、祝日のほか、春期、夏期、冬期休業など学生にとっての休業日には日本交通が運行する鳥取県東部地区の全路線、くる梨、ループ麒麟獅子、湯村温泉湯めぐりエクスプレスは除くに、学生証を提示するだけで乗車することができるようにもしております。このことによりまして学生の活動範囲が広がり若桜町にもゼミの研究などに来られる機会もふえてきています。学生が来て町民と触れ合ったり、活動することは町の活性化にもつながりますので、今までと同様に大学

と連携しながらさまざまな活動をしていただきたいと考えております。しかしながら、大学生の料金につきましては、先ほど申しましたが新年度から100円バスを実施しますので、学生にも大きな負担にもなりにくいというぐあいに思っておりまして、今回改めて新しい制度を設けることは考えておりません。

本当にこの100円っていうのはすばらしいものと思うので、例えば、きょうみん なでバスに乗って氷太くんで昼食をしようとかいうようなことがどんどん、どんどん発想ができてくるというぐあいに思っておるところでもございます。例えば、きょうは吉川の収穫祭だ、じゃ、行ってみようか、そういうようなことが出てくると思うんですね、やっぱり。そういう中で、多分恐らくまた、ちょっともう少し便数があればいいな、そういうものがやっぱりこれから恐らく皆さんが利用しかけたら出てくるということも、問題もありますから、そういうようなことも将来的には、あるいは住民バスなんかを考えながら、そういうことを、施策を出していくっていうのがやっぱり私たちの仕事かなということをおもっておるところでもございます。私は、今年度は若桜町は、いわゆる子育てしやすい町、町民の皆さんが誇りを持って住める

町、この2基だというぐあいには私は思っておるところでもございまして、皆さんと一緒にしまして、いい町を築いていきたいなということをおもっておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。先ほど町長言われて、やはり大学の方から負担金を多分出されての無料化なんだろうなというふうには察しておりました。それで、この100円バスをされれば、本当に利用者がふえてきてもう乗れんがなっているふうになるぐらい、なったらいいなというふうには思うんですけど、また、その様子を、状況をしつかり見ながら、何だろう、あんまり乗らないような時間帯だけでもそういった大学とのあれみたいなことを、負担金をいただいて、無料にするとかってということも何か今後考えていただけたらいいのかなというふうに思いました。それと先ほど吉川での収穫祭にとかってということも本当にOKですし、そのときに町営バスで行き来すればお酒が飲めるというようなこともつながってきて、本当にいい循環になればなというふうに考えます。

人材育成村おこし事業の活用について

では、次の質問に移りたいというふうに思います。人材育成村

おこし事業の活用についてということです。

当事業でこれまでさまざまなイベントや団体が活躍してきました。この事業で育ててもらった者として感謝申し上げます。実施要綱の中では年度中途の応募も受け付けるとなっておりますが、今年度の実施状況を踏まえ、後期にも再募集をかけることについての所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。人材育成おこしで、実施要領では年度中途の応募も受け付けてはなっていますが、今年度の実施状況を踏まえ後期の再募集についての町長の所見はとのご質問でございますけども、人材育成村おこし事業は町内で活動される集落やグループなどの活動を支援し、町の活性化や人材の育成に寄与することを目的に実施している事業です。もともと人づくり基金の利息を利用している事業でありましたが、近年の低金利のために一般会計から繰り出して運営しているため、財源に限りがあります。現在は150万円の予算の範囲内で補助をしておりまして、今年度につきましては4月に募集を行いましたところ、6団体から申し込みがあり、約125万円余りの額を補助金として交付決定し再募集はいたしてお

りません。なお、過去には応募団体が少なかったため、追加募集をした経過もございます。新年度の4月に募集を行いますが、応募が少ない場合は追加募集も考えてみたいと思っておるところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。本当に先ほど、せつかく150万予算見ていて125万ぐらいの今年度は使うということであと25万ほど余って不用額にするのももったいないというふうに思いますので、来年度からはそういったところがないように再募集かけていただけたらというふうに思います。

それで2番目の質問に移りますけど、今後個人にもちょっと焦点を当ててみても いいのではないかなというふうに考えます。勤務地から補助されるような場合を除いて、勤務内容とは全く関係ない資格取得で、今後若桜町のためにこんなことをしていきたいのでこれだけ補助してくださいというような積極的な人材を育てることになるのではないかなというふうに思います。今時点でも介護職員初任者研修費助成事業ということで、ヘルパーの資格取得の助成を行っておりまして、うちの妻もお世話になりました。

それで、今議会の補正でも1名追加の予算が承認されたところ
あります。それで、もっと分野を広げて、例えば先ほどの、今質
問であったインバンドに絡めたことで言いますと、何か観光士資
格というのがあるそうですし、そういったことや身近なところで
言えばスキー指導員の資格というのがありまして、他分野にわた
って対応できるようになればちょっとこんなでいたいんだけど
というような主体的な人材育成というものができるのではないか
というふうに思いますが、町長の所見を伺います。

(川上議長) 答弁を求めます。小林町長。

(小林町長) はい。先ほど前住議員の方から人材育成、今後もっと個人に焦点
を当てて若桜町のために資格取得をさせることが積極的な人材
を育てることになると考えますがどうでしょうかというお尋ね
でございますけども、人材育成・村おこし事業の実施要綱には人
材集団育成事業として町の活性化を推進するための人材集団の
創設、育成、グループ活動支援事業としてグループや集落が行う
地域に根ざした産業、文化、スポーツ活動、イベント開催事業、
特に地域の振興に資すると認められた事業が対象事業となっ
ており、申請のあった団体等に補助金を助成しています。近年の傾

向といたしましては、どちらかといえば人材を育成していくというよりイベントの開催やグループ活動の支援といった傾向に偏っているような感じがしております。資格の取得は自己啓発の1つであり、動機や目的としては就職のためやスキルアップのため、技術・知識、ノウハウの習得、企業、趣味を活かす、生きがいのためなどが考えられます。本来個人の資格は基本的には個人に属するものとなりますので一身専属権、特定の人に引き継ぐことができない、いわゆる個人のライセンスでございまして、取得者本人が負担すべきものと考えます。しかしながら公共の福祉に役立つ資格であったり、町が抱えている課題に必要と考える資格の取得については、今後運営委員会で協議をさせてもらいたいと思っておりますところでもございます。参考には現在では町の資格を取るのに支援している事業はホームヘルパーの資格とか、あるいは指導用免許とか、あるいは障がい者の運転免許取得、こういうものにつきましては別のこの人材育成の方でなしに支援をしているところでもございますけども、こういう先ほどの意見しっかりと運営委員会で検討させていただきたいなというぐあいに思っているところでもございます。

(川上議長) 前住孝行議員。

(前住議員) はい。とても前向きな答弁ありがとうございます。個人取得なのでその若桜にいかに関与してもらえるかというところはしっかり報告、毎年ね、毎年じゃない、3年なら3年、5年なら5年等報告書を出させるようなことにせんと、もう資格を持ったけみたいなんでどっか出られるとか、そういったことにならないように、その辺もちょっと気をつけないといけない部分ではありますけど、そういうぐあいに対応していただけたらいいんじゃないかなというふうに思います。それで、僕自身もスキーの準指導員というのを持っているんですけど、それでスキー指導にも携わっていますが、結構このスキーの指導者が高齢化しておられましてやっぱりその指導される方々も、若いもんおらんだかいやという話になっていて、結構スキー業界も指導者不足という部分がすごい出てきている状況もあつたりします。ちょっと身近だったので、それは伝えさせていただきまし、やっぱり若桜にとって結構人材育成、人材育成というようなことが議会内でも出ているんですけど、そういった若桜のためになるような資格取得は本当に大いに認めるべきだというふうに思いますので、ほんとにそういった

ところを委員さんかな、運営委員でしょうけど、運営委員会を中心に考えていただけたらというふうに思います。

はい、中尾議員も言われましたけど、2期目の最後の年度が始まりました。それで、これまで一般質問さしていただいたことを自分なりに検証していきながら、経過を問うような質問もこれからさせていただくと思いますので、またよろしくお願いします。では終わります。